

欲は、組入れ利回りの上昇から強まっているものの、解約が農林系統機関の期末決算対策や個人筋の納税資金調達等を映じて、205億円と多額に上ったため、月中元本純増額は56億円と46年3月(43億円)以来の低水準となった。

## 実体経済の動向

### ◇生産は再びかなりの増加

(生産——3月は再び増加)

3月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、前月横ばいのあと+2.7%と再び増加し、原計数の前年同月比でも+17.8%と引き続き高い伸びを示した。また、3か月移動平均値(季節調整済み)の前月比では1、2月とも+1.9%の増加をみており、総じて根強い増勢に変化はないよううかがわれる。3月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財(+7.1%、化学機械、圧延機械、プレス機械等)が大幅増となったのをはじめ、資本財輸送機械(乗用車<2,000cc超>、大型バス等)、非耐久消費財(+1.7%、灯油、自動車タイヤ等)、耐久消費財(+1.6%、電子レンジ、ステレオ、冷蔵庫、エアコンディショナ等)、生産財(+1.5%、銑鉄、粗鋼、ナフサ、合繊等)もかなり増加したが、建設資材(+0.2%)は一部品目(鉄骨、コンクリートパイル等)での能力不足が響いて伸び鈍化となった。

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	47年				48年		
	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1月	2月	3月
鉱 指 数	105.5	107.8	110.4	116.3	122.8	122.8	126.1
工 前期(月)比	2.0	2.2	2.4	5.3	2.9	0	2.7
業 前年同期(月)比	2.9	6.2	7.2	12.5	17.8	16.8	17.8
投 資 財	2.2	1.7	5.2	7.1	4.1	0.3	4.8
資 本 財	1.6	1.9	5.1	7.6	4.7	0.6	5.9
同 (輸送機械を除く)	1.8	2.0	8.8	6.0	4.8	1.0	7.1
輸 送 機 械	1.8	2.1	1.1	10.3	3.1	1.7	—
建 設 資 材	3.4	1.8	4.7	5.6	2.8	0.1	0.2
消 費 財	2.3	2.6	0.4	3.1	1.4	0.4	0.8
耐 久 消 費 財	5.2	1.2	0.5	3.3	1.9	0.2	1.6
非 耐 久 消 費 財	0.7	2.7	0.4	2.9	1.6	0.9	1.7
生 産 財	1.9	2.3	1.7	5.6	3.0	0.3	1.5

- (注) 1. 通産省調べ、48年3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

なお、47年度中の推移をみると、年度前半(47年4～9月)は総じて小幅増加(前期比年率+9.0%)にとどまったものの、年度後半(47年10月～48年3月)には大幅に増勢を強め(同+21.2%)、年度平均では前年度比+10.9%と45年度並みの伸びとなった。

#### (出荷——3月は反動減)

3月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、-1.0%と47年7月以来8か月ぶりに減少し、原計数の前年同月比でも+15.5%と若干伸びが鈍化した。これは船舶の反動減によるところが大きいが、船舶を除いても前月比+0.2%(季節調整済み)と微増にとどまったのは、輸出がリーズの反動(家電製品、乗用車等)や値上がりを見越した船積み控え(鋼材)を主因に減少したことが響いたとみられる。特殊分類別にみると、一般資本財(+5.7%、鉄鋼用ロール、金属工作機械等)、生産財(+0.9%、アルミニウム、ナフサ、合繊等)が増加した反面、資本財輸送機械(鋼船、トラック、大型バス等)、耐久消費財(-6.7%、カラーテレビ、冷蔵庫、乗用車等)、非耐久消費財(-1.9%、金属洋食器、メリヤス下着等)、建設資材(-1.3%、スチールサッシ、板ガラス、形鋼等)が減少

した。

なお、47年度中の推移をみると、生産と同様年度後半にかけて増勢を強め(年率増加率、上期+9.2%、下期+21.7%)、年度平均では前年度比+11.4%と45年度の伸び(+9.5%)を上回った。

#### (製品在庫——6か月ぶりの増加)

3月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、+0.4%と47年9月以来6か月ぶりに小幅ながら増加した。これは、前記のような輸出の減少が主因であるが、大幅増産を背景に手元在庫の補てんを図ったこと(鋼板、アルミサッシ、金属工作機械等)も一因とみられる。特殊分類別にみると、生産財(-0.8%、鉄鉄、粗鋼、アルミニウム、合繊等)、一般資本財(-0.6%、鉄鋼用ロール、トラクター等)が減少した反面、耐久消費財(+2.7%、冷蔵庫、カラーテレビ、乗用車等)、非耐久消費財(+1.5%、金属洋食器、写真フィルム等)、資本財輸送機械(乗用車<2,000cc超>、トラック等)、建設資材(+1.3%、形鋼、棒鋼、アルミサッシ等)が増加した。

この間、生産者在庫率指数(45年平均=100、速報、季節調整済み)は、出荷の減少、在庫の増加を

#### 鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

		47年				48年		
		1～12月				1～3月		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
鉱工業	指数	107.5	109.1	112.3	118.2	125.3	126.9	125.6
	前期(月)比	3.1	1.5	2.9	5.3	2.3	1.4	-1.0
	前年同期(月)比	5.4	6.7	8.3	13.2	17.8	18.0	15.5
投資財		4.0	0.4	6.3	4.9	-0.3	5.2	-1.9
資本財		3.7	-0.7	7.4	4.1	-2.2	7.6	-2.0
同(輸送機械を除く)		3.4	0.6	6.0	7.6	6.9	-2.4	5.7
輸送機械		4.0	-3.4	8.9	1.1	-15.4	26.5	—
建設資材		4.3	2.1	4.4	6.3	3.2	0.8	-1.3
消費財		2.8	1.6	-0.6	5.5	3.6	0.8	-4.9
耐久消費財		4.0	1.6	-1.1	7.0	0.2	6.1	-6.7
非耐久消費財		1.7	1.7	-0.3	4.1	6.0	-3.1	-1.9
生産財		2.6	2.5	2.0	6.1	2.5	-0.2	0.9

(注) 1. 通産省調べ、48年3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

		47年(期別)				48年(月別)		
		3月	6月	9月	12月	1月	2月	3月
鉱工業	指数	119.3	118.1	119.8	115.7	113.1	112.0	112.4
	前期(月)末比	-1.5	-1.0	1.4	-3.4	-2.2	-1.0	0.4
	前年同期(月)末比	3.0	-0.3	-0.4	-4.5	-5.5	-6.0	-5.8
業	製品在庫率	109.7	107.3	105.1	94.5	90.3	88.3	89.5
投資財		-4.2	-2.8	-1.9	-4.2	-2.9	-0.5	1.0
資本財		-6.1	-2.9	-1.3	-8.4	-2.4	7.6	-0.3
同(輸送機械を除く)		-5.5	-2.0	0.4	-6.3	-3.3	-2.4	-0.6
輸送機械		-12.0	-6.9	-13.1	-15.5	3.6	26.5	—
建設資材		-2.2	-2.4	2.2	1.7	-3.2	0.8	1.3
消費財		0.6	-0.4	7.7	-2.8	-1.5	0.8	1.8
耐久消費財		4.8	0.7	6.0	-5.3	1.2	6.1	2.7
非耐久消費財		-1.6	-1.4	7.9	-0.6	-3.4	-3.1	1.5
生産財		0.3	-0.6	1.3	0.3	-1.9	-0.2	-0.8

(注) 1. 通産省調べ、48年3月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

映じて89.5と前月(88.3)比1.2ポイントの小幅上昇となった。

なお、生産者製品在庫の47年度中の推移をみると、年度前半はおおむね横ばいとなったが年度後半には大幅に減少し、年度末では前年度末比-5.8%の減少となった。

#### (原材料在庫——2月は小幅増加)

2月の原材料在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、+0.2%と小幅ながら増加した。これは、輸入分(+2.2%)が素原材料(鉄鉱石、銅鉱、綿花、羊毛等)を中心に引き続き増加したうえ、国産分でも素原材料(+3.7%、銅鉱、マンガン鉱石、鉄くず等)が47年5月以来9か月ぶりに増加に転じたためであり、これに対し、国産製品原材料(-1.5%、鉄鉄、普通鋼鋼材、セメント、ナフサ、硫酸等)は引き続き減少した。このような素原材料在庫の増加は、2月の生産財生産の反動減を映じて非鉄、繊維、鉄鋼、化学等の業種を中心に原材料消費が47年9月以来久方ぶりに減少(-1.5%)したことが主因とみられる。

この結果、原材料在庫率指数(速報、45年平均=100、季節調整済み)は98.9と前月(97.4)比1.5ポイ

ントの小幅上昇となった。内容別には、輸入分が前月比+2.8ポイントと上昇を続けたほか、国産分も素原材料、製品原材料ともに上昇したため、前月比1.1ポイントと47年9月以来5か月ぶりに上昇に転じた。

#### (販売業者在庫——1月は増加)

1月の販売業者在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、+1.2%と3か月ぶりに増加した。これは、昨秋来の生産の大幅増加を背景として、市況商品を中心とする流通段階の在庫積み増しが行なわれたことによるものとみられる。品目別にみると、繊維原料(綿花、羊毛、合繊短繊維)、糸(毛糸、スフ糸、合繊糸)、織物(綿織物、スフ織物、合繊織物)、鋼材が増加しており、反面、民生用電気機械、自動車は減少した。

#### 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	47年(期別)			47年(月別)			48年(月別)
	6月	9月	12月	11月	12月	1月	
総合指数	113.5	116.7	117.9	118.8	117.9	119.3	
前期(月)末比	3.4	2.8	1.0	-1.2	-0.8	1.2	

(注) 通産省調べ、48年1月は速報。

#### 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(-)率・%)

	47年(期別)			47年(月別)			48年(月別)
	6月	9月	12月	12月	1月	2月	
在庫指数	116.9	119.4	118.1	118.1	117.8	118.0	
前期(月)末比	-2.3	2.1	-1.1	1.0	-0.3	0.2	
国産分	0.5	1.3	-4.2	0.4	-1.0	-0.4	
素原材料	-1.0	-9.6	-11.1	-7.6	-4.9	3.7	
製品原材料	0.8	3.6	-1.9	2.7	-0.6	-1.5	
輸入分	-12.6	4.3	13.2	3.8	2.5	2.2	
素原材料	-12.6	4.0	14.2	4.0	2.3	2.7	
在庫率指数	111.1	109.8	99.7	99.7	97.4	98.9	
国産分	112.3	110.5	97.0	97.0	93.9	95.0	
素原材料	134.2	118.8	96.9	96.9	91.1	96.0	
製品原材料	108.2	108.9	97.7	97.7	94.9	95.1	
輸入分	107.6	105.6	111.7	111.7	112.6	115.4	
素原材料	109.4	106.2	113.0	113.0	115.1	117.7	

(注) 通産省調べ、48年2月は速報。

#### (設備投資——製造業主体に増加)

3月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、+5.7%と増加し、3か月移動平均値の前月比でも2月は+3.3%と高水準の伸びを持続した。3月の動きを品目別にみると、金属工作機械、圧延機械、化学機械、クレーン等主として製造業設備投資関連資材の増加が目だつ。

3月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、-11.7%と減少した。これは、決算対策のための受注のとりあさがり46、47年の不況期ほどには多くなかったことや、3月以降の値上げ本格化を見越してユーザーが発注時期を繰り上げていたための反動減が響いたとみられ、基調としては増勢を持続しているようにかがわれる。この結果、1～3月期中では前期比+11.7%と、47年10～12月期(+21.1%)に引き続き高い伸

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	47 年		48年	48 年		
	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	1 月	2 月	3 月
民 需	2,038	2,322	2,782	2,401	3,396	2,548
	( 5.9)	( 13.9)	( 19.8)	( 6.6)	( 41.4)	(-25.0)
同(船舶を 除く)	1,851	2,241	2,503	2,524	2,647	2,337
	( 5.0)	( 21.1)	( 11.7)	( 8.0)	( 4.9)	(-11.7)
製 造 業	973	1,181	1,436	1,576	1,459	1,272
	( 22.0)	( 21.3)	( 21.6)	( 16.4)	(- 7.4)	(-12.8)
非製造業	1,062	1,155	1,362	956	1,803	1,326
	(- 6.0)	( 8.8)	( 17.9)	(- 7.0)	( 88.5)	(-26.5)
同(船舶を 除く)	894	1,073	1,065	984	1,145	1,066
	(- 9.3)	( 20.0)	(- 0.7)	(- 3.0)	( 16.4)	(- 6.9)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

びとなった。

3月の建設工事受注額(民間産業分、速報、季節調整済み、前月比)は、前月著伸(+9.6%)のあと-11.1%と大幅減少となった。これは、セメントや人手の不足による施工の進捗難から未消化工事高が急増したため、建設業者が受注選別態度を強めたことによるものとみられる。また官公需についても同様の事情から-4.7%と減少した。

## ◇商品市況は地合い堅調を持続

4月の商品市況をみると、前半は繊維(原糸類)が金融引締め等総需要抑制策の心理的影響などから一段と軟化し、木材も続落を示した。また、鉄鋼も前半上伸のあと月末近くに至り、緊急増産などの措置により騰勢一服となった。しかしながら、繊維、木材も後半には早くも下げ渋り商状に転じ、その他の商品についてもセメント、非鉄、くず鉄等は騰勢を続け、化学品、石油製品、紙等も強含みに推移するなど商品市況は総じてみれば堅調な地合いを続けた。

このように、公定歩合引上げ後の商品市況が繊維等の軟化がみられたものの総じてみれば堅調な地合いを持続しているのは、民需が建設需要等を中心に高水準で推移しているほか、官公需も前年度からのずれ込み工事も加わって、年度替りにもかかわらず増勢を持続するなど実需がなお拡大傾向にあるのに対し、供給面では全般に生産余力が

縮小してきていることが基本的な要因であるが、そのほか原料段階における生産調整(エチレンーポリエチレン)、世界的な原料不足による増産難(パルプ・チップー紙)、春闘ストによる影響(軽油、非鉄)なども響いているものとみられる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……4月入り後の鉄鋼市況の動きをみると、前月末に小反発した形鋼が一段高となったほか、棒鋼、厚板、くず鉄等も3月後半底入れのあと軒並み反騰を示したが、月末近くに至り主要鋼材は総じて騰勢一服となった。

4月入り後、市況が反騰に転じたのは、①官公需、民間ビル・住宅建設、輸出等の最終需要が引き続き増勢を示していること、②これに対してメーカーの供給余力はしだいに乏しくなっていること、③こうした需給のひっ迫化傾向をながめて、2月後半来買控えの姿勢を続けてきた特約店筋が一転して手持ち在庫の補充買いに乗り出したこと、などによるものであるが、後半騰勢一服となったのは、月央以降緊急増産の決定など一連の市況鎮静策が打ち出され、自粛ムードが高まったことによるものである。

繊維……4月の繊維市況をみると、合繊を除く原糸類は金融引締め等総需要抑制策の心理的影響のほか、買占め等に対する批判の高まりを背景とした一連の投機鎮静策、さらには豪毛相場の軟化などによって先安感が広がったため、紡績メーカーが売り急ぎの態度に変わってきた(そ毛糸、綿糸)のに対し、機屋等ユーザー筋では買い見送り姿勢が続いた(そ毛糸、スフ糸)ため、月初から月央にかけて前月末以来の軟弱地合いのうちに一段と下落した。もっとも、中旬から月末近くにかけては輸入糸の成約難(生糸)、定期相場の落着きなどを映じた小口当用買い(スフ糸、そ毛糸)などからまず生糸が反騰、スフ糸も小反発したほか、綿糸、そ毛糸も下げ渋り、もみ合い商状に転じた。

一方、合繊は東南アジア、韓国等の紡機増設や織布能力の増強から輸出需要の増勢に衰えがみられないうえ、内需もニット向け等が好調なため、

市況は強調を持続した。

非鉄金属……4月の非鉄金属市況をみると、銅は前半一段高のあと強保合い、亜鉛が続騰、鉛もひさびさに上伸するなど、全体として堅調を持続した。

これは、実需の根強い増勢に加えて、①LME相場等海外市況が総じて強基調を持続したこと、②精錬メーカーの春闘スト減産や国内建値引上げを見越した仮需などによる面も大きい。

石油製品……4月の製品市況をみると、軽油が強含みを続けたほか、ガソリン、灯油、A重油、C重油(低硫黄)等も強保合いで推移するなど市況は総じて堅調。

これは、商業車向け出荷(ガソリン・軽油)や工場燃料向け出荷(重油)が引き続き好調に推移していること、中間留分(灯油、軽油、A重油)の在庫が低水準となっていること、行楽シーズンの本格化を映じて自家用車、観光バス向け出荷が盛り上がりを見せていることなどによるとみられる。

セメント……セメントの国内向け出荷は、1月(前年同月比+21.4%)、2月(同+24.9%)、3月(同+25.7%)の著伸に続き、4月にはいつてからも20日現在で同+32.3%とさらに増勢を強めている。これは、①貸ビル、マンションの建築、店舗改築等の民間建設需要が引き続きおう盛であること、②本来ならば年度替りで落ち込むことが多い官公需も、47年度からのズレ込み工事を中心に予想外の伸びを示していること、などの事情によるとみられる。

これに対してメーカー側では、①定期修理を繰り延べて、フル操業体制を続けるかたわら、②輸出向け数量を削減して国内向けに振り向けたり、③韓国等から緊急輸入を行なうなど、供給増大に懸命となっているが、現有生産能力では需要の急増にとっても追いつかないのが実情である。このため市中の需給は依然ひっ迫のまま推移しており、生コン業者の操業短縮や建設工事の遅延などセメント不足の影響が表面化しはじめ、こうした品薄状況を映じ市況面でも騰勢が続いている。

木材……昨年末以来かなり急速なテンポで下落してきた内地材市況は、4月後半松製品(松平角等)、杉造作材(杉小幅板)等を中心にさすがに下げ渋り気配となった。これは、①市況の急落により産地の出荷意欲が減退、市場への入荷が最近減少していること、②また流通段階の間屋、仲買筋等の手持ち在庫がかなり減少してきたこともあって市場の一部のように値ごろ感が台頭しつつあることが主因。

一方外材は、米材が原木(昨年末市況高騰時買付け分)および製材品(米国、カナダひき製品に加え、韓国ひき製品も流入)の輸入増大に加え、②今次通貨調整に伴う輸入価格低下の影響も期待されるなど、悪材料が多くむしろ下げ足を速めている。また南洋材も、入荷増大の一方で、主力需要先である合板メーカーが買控えの姿勢をくずしていないため、続落した。

化学品……合成樹脂では、塩ビ、ポリエチレンが一段高となったほか、ポリスチレン、ポリプロピレン等も強含みを続けた。これは、公共投資、住宅投資、個人消費の増加や品薄の同類品からの代替需要(コンクリート管、鉄管→塩ビ管)もあって、パイプ、コンテナを中心に実需が増加が続いているのに対し、原料供給が生産調整(エチレン)や公害対策に伴う稼働率の引下げ(塩素)により抑制され、つれて製品生産も伸び悩んでいるためである。こうした需給関係のひっ迫に対処して、メーカーでは出荷に際してユーザー別に割当てを実施するに至っており、とくにロットの小さい中小加工業者ではやむなく減産に追い込まれるケースもみられはじめている。

また基礎薬品類でも、新年度入り後とあって価格改訂交渉が集中し、硫酸、カセイソーダ、塩酸、液体アンモニア等主要品目が軒並み値上がりした。これは、肥料、合繊、鉄鋼、塗料等関連業界の増産に伴う原料需要増を主体に実需が増加が続いているのに対し、昨年来の旧式設備の廃棄、休止が響いて生産が依然として伸び悩み(1～3月期、前年同期比+1.3%)が続いているためであ

る。

紙……洋紙では、上質紙、中質紙、アート・コート紙等を中心に総じて強基調を持続した。これは、新年度用のカタログ、パンフレット需要が一巡したものの、自動車、家電、デパート向けが引き続き増勢を示しているほか、スーパー、不動産関係からの引合いも活発であるのに対し、国際的な原料(パルプ・チップ)不足から増産が容易でなく需給関係がなおひっ迫化を続けていることによるものである。

一方、段ボール原紙も同様の事情から全般に強含みに推移している。

砂糖……2月末以来軟化を続けていた国内相場(現物)は、4月後半にはいって反発した。これは先月厚生省が発表した人工甘味料サッカリンの使用規制方針を好材料とみたものである。

#### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウェイト	前年度比 上 昇 率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)						
		46年度 平 均	47年度 平 均	48 年			48年4月			
				2 月	3 月	4 月	上 旬	中 旬	下 旬	
総 平 均	100.0	- 0.8	3.2	1.6	1.9	0.5	- 0.1	- 0.1	0.5	
食 料 品	13.4	3.6	2.9	2.3	1.4	0	- 0.1	- 0.4	0.4	
非食料農林産物	2.4	- 4.7	16.2	4.6	0.1	- 6.6	- 5.5	- 1.0	- 1.6	
織 維 製 品	7.8	- 3.4	9.7	7.1	11.4	- 1.5	- 3.4	- 0.2	- 0.2	
製 材・木 製 品	3.8	- 2.7	26.3	4.0	- 0.4	- 4.5	- 1.4	- 1.9	- 0.7	
パルプ・紙・同製品	2.8	- 2.4	3.2	1.3	5.4	2.3	0.4	0	1.8	
金 属 素 材	1.9	- 14.9	- 3.3	- 2.3	- 1.1	3.7	1.2	1.6	2.1	
鉄 鋼	9.4	- 5.3	5.2	0.7	- 0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	
非 鉄 金 属	4.2	- 10.8	- 2.5	2.0	4.5	2.9	1.7	0.2	0.1	
金 属 製 品	3.8	- 0.3	0.8	1.0	1.7	1.7	0.5	0.2	0.7	
電 気 機 器	9.0	- 2.9	- 1.7	- 0.1	- 0.1	0.7	0.4	0	0.4	
輸 送 用 機 器	6.8	0.2	0.4	0	0	0.2	0.1	0	0.1	
一 般・精 密 機 器	10.8	0.5	1.4	0.8	1.3	3.1	1.6	0.2	0.8	
化 学 製 品	8.8	- 0.6	0.7	0.5	0.9	2.0	1.1	0.2	0.5	
石油・石炭・同製品	4.6	10.3	- 1.4	- 1.1	- 1.2	1.2	0.1	0	1.0	
窯 業 製 品	3.1	1.2	1.6	0.5	1.3	3.7	1.5	0	2.8	
雑 品 目	7.6	2.2	4.0	1.5	2.7	1.1	0.4	0.3	0.1	
工 業 製 品	85.5	- 1.1	3.1	1.6	2.1	0.7	0.1	- 0.1	0.5	
大企業性製品	63.3	- 1.4	1.2	1.1	1.4	1.1	0.3	0	0.4	
中小企業性製品	20.1	0.3	9.4	3.2	4.1	- 0.2	- 0.7	- 0.4	0.6	
非 工 業 製 品	14.5	0.8	4.6	1.4	0.9	- 0.6	- 1.0	- 0.2	0	

(注) 日本銀行調べ。

#### (卸売物価——4月にはいり小反落)

3月の卸売物価は、繊維製品をはじめパルプ・紙・同製品、非鉄金属が大幅続騰したほか、食料品、一般・精密機器等もかなり上昇したため、前月比+1.9%と大幅上昇を続けたが、4月には同+0.5%とさすがに騰勢鈍化を示した。これは、繊維製品、製材・木製品が下落したほか非食料農林産物(原木、羊毛等)が反落したためである。もっとも、月中の推移をみると、上、中旬とも前旬比-0.1%と約10か月ぶりに下落をみたが、下旬には一般・精密機器、窯業製品、金属製品等を中心に前旬比+0.5%と反騰した。

なお、47年度平均の前年度比上昇率は+3.2%(前年度同-0.8%)となった。

#### (工業製品生産者物価——5か月連続大幅上昇)

3月の工業製品生産者物価は、前月比+2.4%と

5か月連続の大幅上昇となった。これは、織・編物類、天然繊維・化繊が高騰したほか、パルプ・紙・同製品、非鉄金属、雑品目等が騰勢を強めたことなどによるものである。なお、47年度平均の前年度比上昇率は+3.3%(前年度同-1.1%)とかなりの上昇となった。

#### (消費者物価——引き続き高騰)

4月の消費者物価(東京都区部、速報)は、被服が高騰したのをはじめ食料、住居、雑費等各項目とも上昇したため、前月比+1.8%(前月同+2.3%)と大幅続騰し、前年同月比では+10.1%と10%台に乗せた。なお、季節商品を除く総合でも、前月比+1.4%(前月同+1.7%)とかなりの騰勢を持続している(前年

## 工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェ イト	前年度比上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		46年度 平 均	47年度 平 均	48 年		
				1 月	2 月	3 月
総 平 均	100.0	— 1.1	3.3	1.4	1.7	2.4
食 料 品	10.6	3.5	1.4	0.7	1.1	1.3
天 然 繊 維・化 繊	1.6	— 6.7	32.5	15.1	9.8	18.0
合 繊	1.5	— 15.6	— 6.7	2.5	2.8	2.3
織・編 物 類	3.2	— 3.3	11.9	6.8	10.7	15.6
繊 維 2 次 製 品	3.1	1.4	5.4	2.2	4.9	4.2
製 材・木 製 品	4.9	— 2.1	27.6	0.6	2.5	0.3
パルプ・紙・同製品	3.6	— 2.3	4.8	0.5	1.6	6.1
普 通 鋼 鋼 材	7.2	— 7.1	5.8	2.9	1.2	0
特殊鋼鋼材・その他	3.4	— 2.3	2.1	0.3	0.5	0.4
非 鉄 金 属	4.6	— 9.2	— 2.8	4.3	2.1	6.0
金 属 製 品	5.0	0.9	0.9	0.9	0.8	1.3
電 気 機 器	11.0	— 2.7	— 2.3	0.2	0.3	0.3
輸 送 用 機 器	7.7	0.1	0.2	0	0	0.1
一 般・精 密 機 器	12.6	0.8	2.4	0.6	0.9	1.8
化 学 製 品	9.8	— 1.5	0.4	0.2	0.4	0.9
石 油・石 炭 製 品	3.2	8.8	0.5	0.4	0.5	1.0
窯 業 製 品	3.4	1.8	1.9	0.3	0.6	1.7
雑 品 目	3.7	0.3	4.2	5.0	2.0	5.3

(注) 日本銀行調べ。

同月比+9.7%)。

3月の全国消費者物価は、総合で前月比+2.6%と大幅な上昇を示し、また前年同月比でも+8.4%の高い伸びとなった。これは、被服、食料の高騰が主因であるが、季節商品を除く総合でも+1.9%(前月同+1.0%)と続騰している。この結果、47年度平均では前年度比+5.2%(46年度同+5.7%)とかなりの上昇となった。

## (輸出入物価——反発)

3月の輸出物価は、電気機器が円高の影響で統落したが、繊維品、輸送用機器、雑品目等が上昇したため、前月比+0.5%と反発した(前月同-0.1%)。

また、3月の輸入物価は、鉱物性燃料、機械器具等が円高の影響で統落したものの、繊維品が急騰したほか、食料品、金属等もかなりの上昇を示したため、前月比+1.3%と急反発した(前月同

-1.7%)。

こうした輸出物価を上回る輸入物価の上昇を映じて、3月の交易条件指数(93.8、45年=100)は前月比-0.8%と悪化した。

なお、47年度平均の前年度比騰落率は、輸出-1.6%(前年度同-0.4%)、輸入+0.1%(前年度同-1.4%)となった。

## ◇国際収支は既往最高の赤字

3月の国際収支は、総合収支で前月(894百万ドルの黒字)とは様変わりになり、1,091百万ドルの赤字と既往最高の赤字幅を記録した(従来の最高赤字幅は本年1月の607百万ドル)。

これは、貿易収支の黒字幅が輸出の落込みや輸入の著増から縮小したこと(黒字315百万ドル、前月同758百万ドル)

に加え、長期資本収支が大幅な流出超を続け(流出超789百万ドル、前月同633百万ドル)、誤差脱漏項目もリーズ・アンド・ラグズの反動などから前月とは様変わり的大幅流出超となった(流出超849百万ドル、前月流入超499百万ドル)ためである。

3月の貿易収支を季節調整後でみると、輸出が前月著増をみた船舶等の反動減から前月比-15.9%(前月同+19.0%)と落ち込んだのに対し、輸入は原燃料、一般消費財等が引き続き増加したことに加え、濃縮ウランの緊急輸入(320百万ドル)もあって前月比+19.8%(前月同+11.3%)と著増したため、収支じりの黒字幅は88百万ドルと著しい縮小をみせた(前月975百万ドルの黒字、前々月700百万ドルの黒字)。

長期資本収支は、789百万ドルの流出超と、既往最高であった47年12月(902百万ドルの流出超)

## 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

		ウエ イト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近 月の 前年 同月 比	
					48 年				
			46年度 平 均	47年度 平 均	2 月	3 月	4 月		
消 費 者 物 価	東 京 都 市 特 殊 分 類	総 合	100.0	6.0	5.6	0.9	2.3	1.8	10.1
		(季節商品を除く)	91.3	6.6	6.1	1.2	1.7	1.4	9.7
		食 料	40.3	5.8	5.3	0.8	3.6	1.6	12.0
		住 居	11.8	3.7	5.7	0.8	0.9	1.5	8.5
		光 熱	3.7	1.3	6.4	0.2	0.1	1.3	12.0
		被 服	12.4	8.5	6.2	1.3	3.7	3.0	15.8
		雑 費	31.8	6.7	5.6	1.0	0.9	1.5	5.9
		農 水 畜 産 物	16.6	1.6	3.1	0.7	6.1	...	13.0
		工 業 製 品	43.6	5.5	4.6	1.7	2.3	...	8.6
		うち大企業製品	19.8	2.6	1.5	0.7	2.2	...	4.0
		中小企業製品	23.8	7.9	6.8	2.4	2.4	...	11.9
		サ ー ビ ス	37.0	7.8	8.1	0.7	0.6	...	8.2
	全 国	総 合	100.0	5.7	5.2	0.8	2.6	...	8.4
(季節商品を除く)		91.0	6.2	5.5	1.0	1.9	...	8.5	
上 の 5 万 都 市	総 合	100.0	5.8	5.3	0.8	2.6	...	8.5	
	(季節商品を除く)	91.0	6.3	5.5	1.0	1.9	...	8.5	
輸 入 物 価	輸 出	交 易 条 件	- 0.4	- 1.6	- 0.1	0.5	...	2.8	
	輸 入		- 1.4	0.1	- 1.7	1.3	...	13.1	
	交 易 条 件		1.0	- 1.6	1.6	- 0.8	...	- 9.1	

(注) 1. 消費者物価指数は総理府統計局、輸出入物価は日本銀行調べ。

2. 48年4月は速報。

に次ぐ大幅な流出超となった。

これは、本邦資本面で対外直接投資や借款供与を中心に大口の資本流出がかさんだほか、外国資本面で対日既往投資株式の処分売りが続いたためである。

金融勘定では、輸出手形の増加やユーロ・マネーの返済等がみられたものの、外銀借入れの増加が引き続き多額にのぼったため、為銀ポジションは199百万ドルの悪化をみ、169百万ドルの負債超過に転じた。この間、外貨準備は月中942百万ドル減少し、月末残高は18,125百万ドルとなった。

(輸出——前月大幅増加のあと反動減)

3月の輸出(国際収支ベース)は、前月著増の反動などから、季節調整後で前月比-15.9%(前月同+19.0%)と落ち込み、原計数の前年同月比で

も+18.7%と前月(同+34.3%)を大きく下回る伸びとなった。なお、通関ベースの邦貨表示額でも前年同月比+1.1%の微増にとどまった。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼、事務用機器、科学光学機器等は好伸したものの、前月急増した船舶が反動減となったほか、二輪自動車および綿織物が引き続き前年実績を下回り、自動車も伸び悩んだ。

地域別にみると、西欧向けや東南アジア向けが伸長したものの、米国向けは、主力の自動車、鉄鋼が価格面での競争力の低下等から伸び悩んだため前年実績並みにとどまった。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み)は、前月比では3月+2.9%のあと4月は-3.2%と減少を示し

たが、前年同月比でみると+25.7%となお高水準を持続している(前月同+24.8%)。

品目別にみると、自動車が米国向けの伸び悩みもあって前年並みの水準にとどまったが、一般機械が著伸したほか、電気機械、鉄鋼等が高水準を持続している。地域別にみると、米国向けがやや低い伸びにとどまったものの、アジア向けが一般機械を中心に大幅な増加を示したほか、欧州向けも堅調を持続している。

(輸入——濃縮ウランの緊急輸入もあって著増)

3月の輸入(国際収支ベース)は、濃縮ウランの緊急輸入もあって季節調整済み前月比で+19.8%(前月同+11.3%)と増勢を強めた。なお、通関ベースの邦貨表示額では前年同月比+19.3%となっている。



国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	47 年		48 年	48 年			前 年 同 月
	7～9月	10～12月	1～3月	1 月	2 月	3 月	
経 常 収 支	2,091	2,381	534	△ 197	709	22	588
貿易収支	2,644	2,668	1,073	0	758	315	887
輸 出	7,399	8,188	7,417	1,788	2,692	2,937	2,474
輸 入	4,755	5,520	6,344	1,788	1,934	2,622	1,587
貿易外収支	△ 491	△ 246	△ 517	△ 188	△ 48	△ 281	△ 197
移 転 収 支	△ 62	△ 41	△ 22	△ 9	△ 1	△ 12	△ 102
長期資本収支	△ 1,158	△ 1,817	△ 2,203	△ 781	△ 633	△ 789	△ 366
本邦資本	△ 1,420	△ 1,813	△ 2,003	△ 621	△ 610	△ 772	△ 487
外国資本	262	△ 4	△ 200	△ 160	△ 23	△ 17	121
基礎的収支	933 ( 511)	564 ( 146)	△ 1,669 (△ 979)	△ 978 (△ 278)	76 ( 293)	△ 767 (△ 994)	222 ( 52)
短期資本収支	434	978	1,231	387	319	525	△ 127
誤 差 脱 漏	171	267	△ 366	△ 16	499	△ 849	23
総 合 収 支	1,538	1,809	△ 804	△ 607	894	△ 1,091	118
金融勘定	1,538	1,809	△ 804	△ 607	894	△ 1,091	118
外貨準備増減	644	1,876	△ 240	△ 509	1,211	△ 942	185
そ の 他	894	△ 67	△ 564	△ 98	△ 317	△ 149	△ 67
外貨準備高	16,489	18,365	18,125	17,856	19,067	18,125	16,663
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	477	508	△ 169	330	30	△ 169	△ 1,734

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支 ベ ー ス			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 収 入	輸 出	輸 入	信 用 状	認 証	承 認
47 年 7 ～ 9 月	2,376 (+ 8.7)	1,636 (+ 11.4)	740	2,416 (+ 9.1)	1,983 (+ 10.0)	1,913 (+ 9.8)	2,581 (+ 11.4)	2,031 (+ 11.8)
10 ～ 12 月	2,561 (+ 7.8)	1,811 (+ 10.7)	750	2,609 (+ 8.0)	2,242 (+ 13.0)	2,066 (+ 8.0)	2,813 (+ 9.0)	2,295 (+ 13.0)
48 年 1 ～ 3 月	2,706 (+ 5.6)	2,118 (+ 17.0)	588	2,754 (+ 5.6)	2,445 (+ 9.1)	2,113 (+ 2.3)	2,761 (- 1.9)	2,894 (+ 26.1)
47 年 12 月	2,639 (+ 1.6)	1,915 (+ 7.0)	724	2,697 (+ 2.8)	2,356 (+ 4.9)	2,087 (+ 0.5)	2,919 (+ 3.9)	2,433 (+ 5.6)
48 年 1 月	2,544 (- 3.6)	1,844 (- 3.7)	700	2,615 (- 3.0)	2,240 (- 4.9)	2,019 (- 3.3)	2,781 (- 4.7)	2,351 (- 3.4)
2 月	3,027 (+ 19.0)	2,052 (+ 11.3)	975	3,075 (+ 17.6)	2,489 (+ 11.1)	2,129 (+ 5.4)	2,869 (+ 3.2)	2,992 (+ 27.3)
3 月	2,546 (- 15.9)	2,458 (+ 19.8)	88	2,573 (- 16.3)	2,608 (+ 4.8)	2,191 (+ 2.9)	2,633 (- 8.2)	3,338 (+ 11.6)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減率(%)。  
 3. 季節調整はセンサス局法による。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼原材料が国内粗鋼生産の上昇を映じて大幅な増加を示したほか、輸入価格高騰の影響もあって羊毛、木材、小

## 通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

## 通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	47 年		48年	48 年	
	7~9月	10~12月	1~3月	2 月	3 月
食 料 品	189 (- 3)	193 (+ 3)	161 (+ 16)	60 (+ 33)	60 (+ 7)
魚 介 類	143 (+ 41)	121 (+ 30)	88 (- 1)	32 (+ 18)	32 (- 15)
繊維・同製品	772 (+ 8)	826 (+ 5)	666 (+ 10)	251 (+ 14)	270 (+ 8)
合 織 糸	91 (- 17)	109 (- 1)	93 (+ 16)	36 (+ 24)	36 (+ 13)
綿 織 物	62 (+ 22)	66 (+ 12)	42 (- 9)	16 (- 2)	16 (- 21)
合 織 織 物	214 (+ 14)	245 (+ 9)	197 (+ 20)	75 (+ 25)	84 (+ 21)
化 学 製 品	463 (+ 21)	513 (+ 31)	450 (+ 15)	163 (+ 22)	170 (+ 9)
非金属鉱物製品	128 (+ 25)	130 (+ 19)	111 (+ 7)	39 (+ 6)	47 (+ 13)
金 属 ・ 同 製 品	1,285 (+ 5)	1,453 (+ 19)	1,354 (+ 32)	460 (+ 33)	535 (+ 30)
鉄 鋼	952 (- 1)	1,070 (+ 15)	1,037 (+ 33)	341 (+ 31)	415 (+ 36)
機 械 機 器	4,000 (+ 29)	4,535 (+ 29)	4,196 (+ 24)	1,553 (+ 43)	1,658 (+ 16)
(船舶を除く)	3,360 (+ 28)	3,796 (+ 27)	3,389 (+ 21)	1,185 (+ 23)	1,353 (+ 19)
事 務 用 機 器	123 (+ 29)	155 (+ 37)	153 (+ 50)	50 (+ 43)	65 (+ 58)
テ レ ビ	157 (+ 3)	141 (+ 16)	137 (+ 11)	54 (+ 23)	51 (+ 12)
ラ ジ オ	293 (+ 32)	296 (+ 26)	239 (+ 21)	85 (+ 23)	94 (+ 21)
自 動 車	699 (+ 17)	856 (+ 10)	810 (+ 11)	270 (+ 15)	302 (+ 3)
二 輪 自 動 車	191 (+ 41)	218 (+ 10)	177 (- 18)	67 (- 10)	70 (- 24)
船 舶	640 (+ 36)	739 (+ 42)	807 (+ 38)	368 (+ 193)	305 (+ 3)
光 学 機 器	204 (+ 36)	221 (+ 33)	187 (+ 19)	58 (+ 2)	84 (+ 34)
テ レ コ ー ダ ー	177 (+ 29)	199 (+ 36)	158 (+ 24)	57 (+ 31)	62 (+ 22)
そ の 他	678 (+ 10)	706 (+ 21)	597 (+ 21)	208 (+ 21)	242 (+ 21)
合 計	7,515 (+ 19)	8,356 (+ 23)	7,548 (+ 23)	2,739 (+ 34)	2,982 (+ 17)
(船舶を除く)	6,876 (+ 17)	7,617 (+ 21)	6,742 (+ 21)	2,371 (+ 24)	2,677 (+ 19)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

	47 年		48年	48 年	
	7~9月	10~12月	1~3月	2 月	3 月
食 料 品	886 (+ 33)	1,037 (+ 21)	1,059 (+ 33)	355 (+ 45)	411 (+ 29)
肉 類	91 (+ 68)	122 (+ 51)	110 (+ 80)	29 (+ 39)	53 (+ 151)
魚 介 類	141 (+ 51)	169 (+ 6)	139 (+ 16)	47 (+ 26)	56 (+ 41)
小 麦	88 (+ 46)	108 (- 4)	133 (+ 83)	48 (+ 205)	42 (+ 39)
とうもろこし	65 (+ 11)	89 (+ 43)	104 (+ 68)	36 (+ 81)	42 (+ 80)
砂 糖	127 (+ 94)	106 (+ 54)	77 (- 21)	37 (- 16)	13 (- 53)
原 燃 料	3,228 (+ 21)	3,674 (+ 30)	4,062 (+ 36)	1,290 (+ 32)	1,520 (+ 47)
羊 毛	120 (+ 76)	145 (+ 112)	221 (+ 152)	71 (+ 161)	91 (+ 167)
綿 花	125 (+ 9)	142 (+ 16)	195 (+ 15)	69 (+ 16)	67 (+ 11)
鉄 鉱 石	326 (- 1)	363 (+ 10)	394 (+ 27)	111 (+ 19)	151 (+ 53)
鉄 鋼 く ず	27 (+ 1)	37 (+ 55)	73 (+ 233)	25 (+ 673)	26 (+ 151)
非鉄金属鉱	272 (+ 1)	290 (+ 26)	322 (+ 49)	107 (+ 40)	110 (+ 61)
大 豆	115 (+ 19)	129 (+ 5)	137 (+ 24)	42 (+ 7)	50 (+ 49)
木 材	430 (+ 41)	495 (+ 29)	655 (+ 80)	205 (+ 71)	257 (+ 120)
石 炭	282 (+ 15)	284 (+ 28)	284 (+ 14)	91 (+ 17)	106 (+ 13)
原 油	989 (+ 27)	1,142 (+ 38)	1,148 (+ 25)	362 (+ 15)	413 (+ 27)
化 学 製 品	299 (+ 31)	324 (+ 17)	352 (+ 32)	112 (+ 25)	134 (+ 40)
機 械 機 器	604 (+ 17)	657 (+ 11)	740 (+ 3)	221 (+ 3)	281 (- 14)
航 空 機	61 (+ 13)	59 (- 9)	76 (+ 43)	11 (- 33)	29 (- 78)
そ の 他	853 (+ 45)	979 (+ 59)	1,078 (+ 83)	350 (+ 64)	430 (+ 81)
合 計	5,869 (+ 26)	6,671 (+ 29)	7,305 (+ 35)	2,335 (+ 34)	2,776 (+ 38)
工 業 用 原 料	3,912 (+ 25)	4,460 (+ 34)	5,010 (+ 41)	1,605 (+ 40)	1,889 (+ 48)
消 費 財	1,330 (+ 38)	1,543 (+ 26)	1,526 (+ 36)	500 (+ 37)	591 (+ 46)
一般消費財	301 (+ 72)	340 (+ 62)	337 (+ 53)	110 (+ 53)	130 (+ 61)
資 本 財	569 (+ 15)	604 (+ 9)	681 (- 1)	203 (- 1)	257 (- 18)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

麦、とうもろこし・こうりゃんが引き続き大幅に増加したほか、一般消費財もかなり高い伸びを持続している。これに加え当月は、前記の濃縮ウラン緊急輸入といった特殊要因もみられた。

3月の輸入承認額(季節調整済み)は、輸入価格の高騰もあって前月比+11.6%(前月同+27.3%)と引き続き著しい増加傾向をみせている。

2月の輸入素原材料在庫(季節調整済み)は、前月比+2.7%となり、同消費が+0.4%の伸びにとどまったことから、在庫率は117.7(前月115.1、45年=100)と前月比2.6ポイントの上昇となった。

なお、47年度の国際収支は、総合収支で29.6億ドルの黒字となり、黒字幅は前年度(黒字額80.4億ドル)に比べ大幅に縮小した。

これは、貿易収支が、一昨年末の円切上げにもかかわらずほぼ前年並みの大幅黒字額(83.8億ドル、前年84.2億ドル)を計上したほか、通貨不安の再燃等から短期資本収支が引き続き多額の流入超となったものの、長期資本収支が本邦対外投資の著増を中心に59.2億ドルの記録的な流出超(前

年同16.5億ドル)となったためである。

#### 47年度中の国際収支実績見込み

(単位・百万ドル)

	47年度中	46年度中	前年度比 増減額
経常収支	6,230	6,323	△ 93
貿易収支	8,381	8,422	△ 41
輸出	29,477 (+ 20)	24,661 (+ 24)	4,816
輸入	21,096 (+ 30)	16,239 (+ 5)	4,857
貿易外収支	△ 1,810	△ 1,778	△ 32
移転収支	△ 341	△ 321	△ 20
長期資本収支	△ 5,916	△ 1,647	△ 4,269
本邦資本	△ 6,171	△ 2,418	△ 3,753
外国資本	255	771	△ 516
基礎的収支	314	4,676	△ 4,362
短期資本収支	2,439	3,131	△ 692
誤差脱漏	209	236	△ 27
総合収支	2,962	8,043	△ 5,081
金融勘定	2,962	8,043	△ 5,081
外貨準備増減	1,462	11,205	△ 9,743
その他	1,500	△ 3,002	4,502

(注) 1. カッコ内は前年度比増加率(%)。

2. 46年度の外貨準備増減にはSDR配分額等を含む。